

東つ子

たのしみが
ゆきわたる
東小学校

たくましき

「子どもは風の子」といわれます。これは正確には「子どもは風の子 大人は火の子」だそうです。その意味は、「子どもは活発で寒風が吹いても戸外で駆け回って遊び、大人は寒がって火のそばばかりにいる」ということです。

ここ数日、実に寒い日が続いていますが、休み時間になると、運動場でボール遊び、ドッジボール、追いかけて遊ぶのを見たり、子どももつてすいな、と思ふの頃もそうだったなあと、思い出されます。



「かしこく なかよく たくましき」が本校の教育目標、目指す子ども姿です。そのうちの「たくましき」と思っています。「たくましき」という言葉からどんなことをイメージしていますか。「体がしっかりしている」「張り切っている」「意気込みがある」「元気で生き生きしている」「なな、体や心が健やかで力強い様子が浮かびます。健康な体をつくるには、毎日遊びで体を鍛える。スポーツをする。早起き・早寝・早起き・食事をしっかりとる。体を動かすのをいやがらないで仕事や当番活動をするなど、毎日の生活のリズムを守る。健康な体づくりにつながる。体を動かして汗をかくことは人間にとつてとても大切なことです。それに体を動かした後は、すがすがしく気持ちのよいものです。地域のスポーツ少年団やスポーツ教室に入っている子が多くいます。目標をもつて一つ一つの技を身に付ける練習をする。その目標がかなえられた時の気持ちは何ともいえぬくらい。のびのびとした気持ち。満足した気持ちになり、また一段高い目標に挑戦して

いくことができます。人間は、「よくなりたいたい」という向上心をもっています。こんなことをやりたいと思っても、体の調子が悪かったり、気持ちが弱かったりしたら挑戦できません。たくましい体と心があつてこそ挑戦できるのです。家でゲームやネットばかりしているのではなく、友達を誘い、外で遊んだり、運動したりすることです。ご家庭でお子さんのこんな相談にのっていただき、体を鍛える計画を立ててみましょう。二月七日からロシアのソチで冬季オリンピックが開催されます。もしかしからスポーツを始めるきっかけになるかもしれません。

校舎脱出ゲーム

一月十一日の土曜日、正月気分もさめやらない中、「とうふの会」主催の「冬の校舎脱出ゲーム」が開催されました。



おはしで米つぶを移す

イベントには、五十組の親子約二百人が参加しました。時間差をつけて集合し、受付で箱の中からカラーボールを引いて出た色の教室へ。各教室でクイズやゲームをし、クリアできた次の部屋へ進むというもの。テレビの「脱出ゲーム」に負けないほど難しい問題やゲームがありましたが、十三チームが最後まで脱出することができました。途中で失格になった親子からは、「次は絶対に成功したい。」という声。そして「今度はいつやるの？」という声も。この日、東小学校は家族の歓声が響き渡り、笑顔が溢れていました。



クイズ ○かバツか

真を職員室廊下に掲示しておきたいと思っておりますので、ご覧ください。

給食週間の取組

一月二十四日から一週間は「全国学校給食週間」です。戦後、日本は食糧不足に見舞われ、子どもたちはやせ細り、いつもお腹をすかせていました。こうした状況に世界各国から食料品などの支援物資が贈られ、戦争によって中断されていた学校給食が再開されました。このことを記念して行われる行事が「全国学校給食週間」です。

本校では、次のような取組を行っています。

- ①各地の特産物に視点を当てた献立
- ②学校給食の歴史を紹介
- ③大型紙芝居「やさしい村の村長さんはだあれ？」を給食委員会児童が上演
- ④「いただきます」「ごちそうさま」の意味

学校給食は、食育として重要な役割を担っており、成長期の今だけではなく、将来にわたって、子どもたちが健康で心豊かな生活を送るために大切なことを学ぶ場となっております。

